

10月30日セミナーリフレクション

講師：東海国語教育を学ぶ会 顧問 石井順治先生

テーマ：「学び合う学びが目指すもの、その実現でたいせつにしたいこと」

「子どもの間違いや分らなさは宝物である」ということの大切さは、漠然とは理解できなくても、現実の授業の中で活かすことは、とても難しいと感じていました。

石井先生のお話には、必ずこの「宝物」という考え方が含まれています。本日のセミナーの中でも、「華やかさのある授業ではなく、一人ひとりが確かに学びを全うしていく姿があってこそ、学び合う学びがある。」と、実際の授業ビデオのいくつかの場面をとおして、これらのことがよく伝わってきたと思います。

何度、お話をお聞きしても、その度に新鮮で明日からまた頑張ろうという気持ちになります。とても、足元にも及びませんが、また、頑張っって石井先生の教え「子どもが見える教師」に近づきたいと思います。ありがとうございました。

石井先生から機会があるたびに何度も学んでいます、毎回、学びでいっぱいです。いつもありがとうございます。石井先生が若い学生や教師からの鋭い質問に答えて、How toではなく、理念と哲学とビジョンで伝えられたことによって、自分の頭の中にはくっきりイメージとして映像として浮かび上がり刻まれました。研究者からの質問には端的に答えられ、切れ味の鋭さにとても感動しました。オンライン研修とは違い、やはり、ライブがいいですね。

緊張感と臨場感に胸がいっぱいです。ふりかえりを書くことが、これほど楽しいことは初めてです。これからも、いっぱい学ばせていただきます。ありがとうございました。

従来の授業の方法を見直す機会になりました。主体的な学びができるような授業を考えるたびに、「主体的な学び」とは一体何なのかという疑問に苦しんでいました。

今回、「どのようにすれば話し合いのできる児童生徒を育てることができるのか」という質問をいたしました、「話し合い」ではなく「聴き合い」と思ふべきだというお言葉が、最も印象に残っております。5例の授業ビデオを拝見して、生徒主体の授業というものが、ほんの少し理解できました。

よい指導方法を知りたいと思っていましたが、質問で、そのようなものはなく、自分の経験を通して確立するものであるという答えをいただき、教員の立場に立とうとしている私自身が主体的な姿勢をもつことができているのだと、痛感いたしました。ありがとうございました。

すべての子どもの学びの保障と、子どもの学びの深まりについてよくわかりました。

子どもの関係性づくりも大切であると思いました。また、教師が足場をかけるということが教師の力量が試されると思いました。

「子ども⇔教材⇔教師」のトライアングルをリアルタイムでつないでいくことが、とてもよくわかりました。ふりかえることで、経験値が高まることをこれからも、心に刻んで専門性を高めていきたいと思いました。ありがとうございました。本当によくわかりました。明日からの活力ができました。

<すべての子どもの学びの為に>

「5分の4と0.7はどちらが大きいのか」という問いについて考える授業で、女子2人がま

だわかっていない男子に教える姿をみて、わずか数分の中にも、かかわりが生まれ、それが支えになってゆくという考え方が、とても素敵であると思いました。

「穴抜けになっている筆算」について、子ども同士で教え合い理解を深める努力をしていくことで、積極的に質問できる状況などが生まれていくことが感じられました。

<学びの深まり>

学ぶ主体を子どもとし、教師は子どもたちの分からなさに足場をかけるだけ、という接し方で、板書を書くなどはほとんど必要ないと感じました。

子どもを「見る」ことが大切であり、はじめは簡単ではないが、やはり、経験を繰り返しながら、視野を広げてゆくしか方法がないと感じました。ある意味で、追求すべき「学問」のようなものなのかもしれないと感じました。

約2年間、オンラインと電話でしかつながることができませんでしたが、本日、直接お会いできたことに感動を覚えております。

夏にも見せていただいた授業の映像もありましたが、それを、丁寧に石井先生が語っていただいたことで、夏には観られていなかったことを観せていただきました。

日々の忙しさに追われて、意識が薄くなっていたことを、今日のお話で改めて大切に、大事にしていこうと思いました。ありがとうございました。

授業の動画を拝見する中で、取り組むに値する課題を準備することが重要だと感じました。例えば、円に直線を引く課題は、自分で書いてみると、5本目あたりから条件を満たす線を引くことが難しくなり、それまでに引いたところから規則性を発見しようとする他なくなります。教科内容の本質に行き当たる課題を考えることが必要だと考えます。

指導に関しては、何をするか、どう教えるかよりも、何が見えるか、何が聴こえるかという受け入れの面を磨き、鍛えることの必要性を感じました。

聴けない子は学べない。話し合いより、聴き合い。どれだけ文章（ことば）にふれたか。先生の短い話の中で、大事な、ハッとすることがたくさんあり、もっと話を聴いていたいと思いました。

石井先生が、これはダメといていたこと、思い当たることがたくさんありました。明日からさっそく一つでも取り入れたいと思いました。

「話し合う」ことよりも「聴き合う」環境を作り上げる取り組みをするという点に驚きました。「学び合う」というのは、まず相手の意見を聞いて、自分で見つけることができなかつた新たな学びを受けて、発展させることだということを再認識させられました。

話すことを前に持ってくると、相手の言葉が耳に入ってこないということにハッとさせられました。良い授業を作り上げるために、聴き合えるような授業づくりを、これから考えていきたいと思います。

ビデオを見ながら説明を聞き、なるほど・・・と思いながら見ていました。経験年数だけはあるのですが、なかなか授業がうまくいかず、どうしたら子どもたちが・・・と思って参加させていただきました。

今日の話、3つのキーワードにまとめられました。自分もこれから、魅力的な課題に子どもが会い、聴き合う子を育てていきたいです。本当にありがとうございました。

かつてのゼミ生、現在のゼミ生とともに参加できて、指導者として、とても充実した気持ちになりました。

「学び合う学び」を現在の教師と将来の教師に伝える機会ができたことが自らの喜びです。これからも続けたいと思います。

こんな学びの姿を校内に起こしたい。こんな授業を楽しむ教師たちになって欲しい。という思いが一層強くなりました。

無理に引っ張るのではなく、形から入るのではなく、こんな学びを展開したいと先生たちの気づきを待ち、お互いに学び合おうとする教師集団になるようじっくりと時間をかけて、学校づくりをしていきたいです。

石井先生のお考えに、ずっと前から共感していました。今日は、素晴らしい学びの時間をありがとうございました。

素直に思ったことは、日々の授業を改めて確認し、見直していきたいということです。

一人ひとりの子どもを大切にする。そのためにも、教師に待つ姿勢が大切であると思いました。とても、いい刺激になりました。本当にありがとうございました。

特に「ちいちゃんのかげおくり」の実践が心に残りました。子どもの学びが点になってしまわないように、教師は心を砕かないといけないし、必要な時には、足場をかけなければならないと学びました。

そのうえで、悩んでいるのは、文学の学びにおいて「想像したこと、教えて」と、子どもから出てくるのを大きく投げかけるのか、点にならないように「〇〇の様子について、教えて」「〇〇が見ているものは、何かな教えて」と、視点を絞って課題を提示するのかを迷っています。

きっと、子どもたちが、どこまで育っているのかによって、異なるのだと思いますが、その見極めが難しいなと感じています。

これからも自分が学び続けていきます。ありがとうございました。

私は、子どもが発言することに注目していましたが、「聴き合う力」が大事だということを知りました。

私のクラスでは、私が子どもの言葉をオウム返しすることが多いせいか、聴く力が弱いように思います。今後は、子ども同士で聴き合えるように、私が発する言葉を少なくしていきたいと思いました。

足場かけは、どのように行っていくのか？気になりました。

自分の国語の授業でも、たくさんの発言を出してほしいために、いろいろな働きかけをしています。しかし、まず、聴く力を高めるということは、アプローチしていません。今のクラスの子どもたちなら、きっと育ってくれると思います。簡単な方法はないということですが、クラスの子どもと共にアプローチしてみようと思います。ありがとうございました。

若い先生方を見ていると、きっと、学び合う授業を受けてこなかったのだろうなと思います。私たち教師がもっと変わっていかなければ、学んでいかなければならないと日々思っています。

「教え合う」「話し合う」という言葉が踊る現職教育を「聴き合う」という考え方に向けてい

けるようにしたいと思います。

考える力を育てるという視点を持ち続けて、授業をし、子どもたちと学び合っている教師でありたいです。

今日も、深い学びへのご示唆をありがとうございました。

実践に向かう勇気をいただきました。教室の景色をかえるため、力を尽くしていきたいと思っています。

「学び合う学び」の大切な点を再確認することが出ました。「すべての子どもの学び」「学びの深まり」など、とても大切だと分かりました。

いつもブレないお話で、自分を振り返ることのきっかけとなりました。

学び合う学び（学び合い）が広まると同時に、形だけの学びのない学び合いも見受けられます。

今日のセミナーでは、具体的なビデオをもとに「学びが生まれる」「学びが深まる」とはどういうことかを改めて考える機会となりました。

足場かけ（スキヤフォールディング）が、単なるヒントや教師の出で終わらないためには、何が必要かを考えていきたい。

学び合う学びのポイントとして、「全ての子どもの学びのため」と「学びの深まり」が挙げられました。それらを念頭において指導することで、児童・生徒の学びの保障につながるという大切な考えを知ることができ、学級として、教科としても指導する際に活用できると考えます。

授業で交わされる会話の量、バランスとして教師の発言より児童生徒の発言が多くあれという考えを理解しているつもりでした。今回のセミナーで「学び合う学び」が児童生徒の主体性を育むためといった目的があるという点が、新たな気づきでした。

質問させていただいた「発言に対する評価」と「もう一度読ませる意図」についての返答として、読みのクオリティーの質を上げ、多面的、多角的に理解を深め、広げることで教室全体の質、世界の構築がされるという点が、とても勉強になりました。

足場かけのタイミング、回数的重要性も、今後活かしていこうと考えています。

本日は、貴重な学びをありがとうございました。

「子どもが見える教師になれ」この言葉の重さを、今日はしっかり受け止めました。授業がきちんとデザインできる教師、確かな足場かけができる教師、私もなりたい、育てていきたい。その手伝いがしたいと思いました。

足場かけは、学びを深めるうえで必要なことだと感じるが、振り返りの経験の中でしか身につかないことを、石井先生の言葉で再確認できました。改めて、学び合う学びの難しさを感じました。

「ごんぎつね」の6の場面を研究授業で公開したことがないと話されたことを聞いて、石井先生が子どもと一緒に学びたいということを大事にされているのも凄いなと感じました。

石井先生の話（信念）を、直接うかがって、これまでじっくりとこなかったところが自分なりにハマった感がありました。とても良い学びになりました。ありがとうございました。

方法ではなく“観”を大切にしていきたいと思っています。

学び合う学びを実現するためには、学校の安心感が一番必要なのかなと思いました。

一時間の授業の学習評価、定期テストは、どうあるべきかお聞きしたかった。

学び合う学びの原点を確認できました。確認というのは、頭でわかるのではなく、自分の中に何度も落とし込むということです。石井先生のお話を伺って「自分の足りなさ」「あっそうだった」「こうやってみよう」と思うことがいくつもあり、月曜日からまた、がんばってみよう！と思いました。教材研究し直します。ありがとうございました。

後半の質問タイムで、若い方からの素朴な疑問に対して、石井先生が今後の教育現場に即した返答をされ、スッキリしました。

文学の本質、見えなくて苦しいな。もっと文学を読んで来ればよかったと、今になって後悔ばかりです。

考えさせられる授業ビデオを見せていただきました。ありがとうございました。

分からないから教える子どもの姿や教師からわからなさに寄り添う姿勢、支え合う子どもや教師、そうした授業の積み重ねが学び合いの基本だと思います。

それが実現できる学校でありたいと思うし、そんな教師がいる学校にしていきたいと思います。改めて、もう一度、学校を見直してみたいなと感じました。ありがとうございました。

「足場かけは大切。前もっては予測できない。授業の中で見つけていけるのが教師の仕事」ということが参考になりました。

学び合いのシーンが撮れる、そうした視点で授業ができる学校にしていきたいです。

「単なるグループワーク（見かけ上の）だけでは、学び合いにならない」これは学校へ持ち帰りたいです。

聴く力が学び合いのベースになるのだが「マニュアルはなく人間の営み、でも実践の記録は共有できる」ということが印象に残った。本校でも「リボイス」のシーンが多く、これから勉強していきます。

教師は言葉を少なく。誘導しないで、ここぞという時に足場をかける。

頭では理解していても、なかなか難しいと感じています。ついつい、誘導してしまっています。うまくいかない場面も含めて、子どもたちと一緒に授業をつくっていきたくて改めて思いました。

話し合いではなく「聴き合い」という言葉は、これまで話し合いと言っていた場で、意識的に使っていきたい。支え合う空気をつくっていきたくて思いました。

また、こういった場を通じて、学び合いを続けていきたいです。

算数の授業であえてわからない子どもを前で説明させている場面はすごく良いと感じました。わかる子どもに説明させると、そこで授業は終わってしまいます。子どもたちの学びもそこで終わってしまう。だから、わからないことに寄り添うことは素晴らしいと感じました。

子どもたちが、一つの問題にしっかり取り組む、助け合うそのようなクラスをつくっていきたくて思いました。

学び合う学びとは、すべての子どもたちのため、学びの深まりということを知り、学びというものは、改めて深いものだと感じました。

最初に紹介のあった授業ビデオで、上手い関わり方ではなくても、一人の子どものために、6分以上支えつづける姿を見て、これは仲間同士だからこそできることだと思いました。そして、

「大きな数の筆算」の授業でも、相手のペースに合わせるという行動について、これは本当に相手のことを考えていないとできないことであるし、大人にとっても言えることだと思いました。

相手が何かを考えているとき、取り組んでいるときに、すべてを指示するのではなく、同じ立場になって一緒に考えるというところの大切さに気付きました。

本日は、ありがとうございました。改めて、「子どもが見える教師」を目指し続けていこうと思いました。

石井先生の力強い言葉には、いつも心を動かされます。「専門性を高めるには経験しかない」「ハウツーはありません」「ごんぎつねは・・・兵十とゴンの溝を・・・」「ちいちゃんのひとりぼっちを・・・」書ききれないほどの学びをいただきました。ありがとうございました。

一人ひとりに目を向けることの大切さを、改めて実感させていただきました。

子どもと教材と教師がつくる授業。学びの大切さの原点を再確認できました。

本当にありがとうございました。

学び合う学びとは、すべての子どもの学びの保障と学びの深まりの2つを目指している。足場をかけることが大事な場面で、そのためには1か所か2か所、ここぞという時にかける。つないでいくことができる子どもを育てる。

一人ひとりが学んでいくなかで、子どもたち同士が困っている人を見つけて、周りが支えていく。

話し合いではなく、聴き合い。目の前の子どもの実態を捉えていく。誰の考えも聴こうとする子どもを育てていく。

聴き合うつながりを育てる

子どもの事実が見えるような教師になれるよう経験を積んでいきたいです。

貴重な講演をありがとうございました。「学び合い」はすごく難しく、現場経験のない私には、未知のことばかりですが、今回えた学びを生かして、4月から務めていきたいと思いました。特に、「聴き合う」ということを大切にしたいです。目の前の子どもたちと一緒に、自分も成長していけるように頑張っていきます。ありがとうございました。

教師があまり干渉せずとも、子どもの言葉だけで授業を進められるために、まずは子どもが安心して授業うけられる学級をつくっていくことに尽力したいと、来年度から教師になる身として感じました。

聴き合える関係をつくり「聴ける」子どもを育てるというお話は、経験の浅い私にとっても考えさせられるお言葉でした。

話し合う子どもの姿を見て、自分だけで満足するのではなく、横糸を意識した授業をつくっていけるよう、今日のお話を自分なりに解釈していきたいです。

本日は、本当にありがとうございました。

今日は素晴らしい講演をありがとうございました。「学び合い」というのは「話し合い」ではなく「聴き合い」を大切にする意識を子どもがもつことが重要だということがわかりました。

また、教師が教えるのではなく、子どもをつなぐことが大切だということを学ばせていただきました。今日は、ありがとうございました。

素敵な講義をありがとうございました。私は、去年の教育実習校にて「学び合う学び」という言葉を知りました。実際に私も「学び合う学び」の形をとる実習校の環境で授業をさせていただきましたが、子ども同士のやり取りで教師側の気づいてほしいことにたどり着くことが難しい状況を見ました。教師は言葉を出しすぎてはいけないけど、学び合いにするためには、いかに教師の足場かけが重要なのか、講義を通して学ぶことができました。

足場をかけるタイミングや内容はどれなのか見極めるのは、教師の課題だと感じました。

動画をたくさん見せていただき、具体的にイメージをもつことができました。特に、「足場をかける」という言葉が印象に残りました。時間はかかるが、子どもに気づかせることの大切さも再認識することができました。

すべての子どもの学びの保障ということは、大変難しいが、常に意識して指導にあたっていく、極めて大切なキーワードだと感じる。ありがとうございました。